

英語で科学を学ぶ

外国人研究者を招き英語講演会を実施

2学年普通科理系及び理数科を対象に、本年度初の英語講演会を11月14日に実施しました。外国人の研究者を招き、英語で科学を学ぶことはこれまでもありましたが、学年一斉で大人数の講演会でした。今年度は5名の外国人研究者を迎え、物理と生物分野の5講座を同時に行いました。そして、少人数で



実験を取り入れながら、より内容の濃い英語講演会の実施を目指しました。講演会では、それぞれの教科に関わる話や現在講師が行っている研究内容について英語で聞きました。専門的な話になると、難しい単語や聞きなれない専門用語で戸惑う様子がありましたが、同行した日本人研究者や本校英語科教員のフォローもあり、研究内容や科学英語について理解を深めることができました。また、それぞれの講師の出身国の文化や研究者として日本に來たいきさつについて、興味深く話を聞いている様子が見られました。参加した生徒からは、英語による質問や感想（謝辞）もあり、有意義な講演会となりました。

生徒の感想

- 今回の講演会を聞いて、英語の重要性について再確認できました。講師の方の英語が聞き取れないこともありましたが、大学では論文などで英語を使うことが多いと言っていました。大学進学後のことも考えて英語をもっと勉強したいです。大学では自分の研究に没頭できると聞いて楽しみになりました。（理数科男子）
- 私たちの身近に生えているシロツメクサやアカツメクサ、街路樹が豆科の植物だと知り驚きました。今の研究内容の相互作用の探求についても知りたいなと思いました。講師の方は、「趣味で研究している」と話していて、誰も知らないことを、趣味の中から掘り下げて発見する点がすごいと思いました。将来、研究者の道に進むのもありかなと思った講義でした。（理系女子）
- 今回の講演は、内容が難しく、さらに英語での講演だったので大変でした。理解に苦しむ場面が多く悔しさを覚えました。そんな中でも、現代社会にスマホや電気自動車など便利なものが増えているのは1800年代に磁界を発見したからだと学び、当時のその発見は偉大だったのだと驚きを隠せませんでした。利便性が増している機器には磁石の小型化が成功しているからだと学び、興味を持ちました。とにかくこのようなすごいことを学べるように英語をもっと学びたいと思いました。（理系男子）

各講座の概要

物理講座	東北大学工学部大学院	Lakhan BAINSLA 博士 インド
	(スピントロニクス) 固体中の電子が持つ電荷とスピンの両方を工学的に利用、応用する分野の研究	
物理講座	東北大学工学部大学院	Cong H. Vo 博士 ベトナム
	津波の研究 Google Earth の活用	
物理講座	東北大学工学部大学院	Satya P. PATI 博士 インド
	磁性二次元構造体におけるスピン波共鳴の電圧制御	
生物講座	岩手大学農学部大学院	Abidur Rahman 博士 バングラデシュ
	植物の成長過程におけるエチレンとオーキシンの研究	
生物講座	岩手大学農学部大学院	Yasuyuki Kawaharada 博士 日本/デンマーク
	豆科植物の根粒の分子メカニズムに関する研究	



生物講座で根粒菌について説明する川原田先生